

篤山先生が 残したものの

生誕
250年

写真：近藤篤山旧邸

西条市が誇る郷土の偉人、近藤篤山は、江戸時代に小松藩で朱子学を教えた教育者です。多くの優秀な人材を育てただけでなく、生涯を通じて周りから模範となるような生き方をし、「伊予聖人」とまでたたえられました。その教え・生き様から、私たちは何を学ぶべきでしょうか。



近藤篤山 (1766-1846)

近藤篤山を理解するためには生い立ちを知らないといけないということで、小松史談会会長の石丸敏信さんに教えていただきました。

苦勞した幼少期

近藤篤山は宇摩郡の小林村で生まれました。6歳の時に両親が離婚し、母が夫家に帰るといふ不幸な出来事がありました。10歳の時には天災が続き、家が破産しました。父

小松藩での40年間

帰ってきた篤山は、尾藤二洲の出身地である川之江で塾を開き、弟子たちを教えました。37歳の時に小松藩へ招聘されたのですが、川之江の弟子たちが書いた別れの手紙には「先生と別れるのがつらい」「私たちを見捨てるのですか」という内容が書かれています。それくらい慕われていました。

小松藩に藩主の先生として招かれた篤山は、藩校の養正館で殿様や藩士に朱子学を教え、1年もすると皆に慕われるようになりました。弟子の中からレベルの高い人間がどんどん出てきました。

篤山の推薦もあり、昌平黌へも多くの人が行きました。統計を調べてみたところ、弘化3(1846)年からの8年間に、1万石の小松藩からは4人も行きました。昌平黌の入寮者数を各藩の石高で割ってみると、小松藩が全国で一番の割合です。それは篤山の力によるもの大きいと思います。

篤山は81歳で亡くなるまで小松で40年以上教えました。



▲篤山旧邸に展示されている「三戒」の教え

略年譜

明和3年 (1766)	宇摩郡小林村(現在の四国中央市土居町)に生まれる
明和8年 (1771)	生母との別離にあう
安永4年 (1775)	家産が傾き、家族で別子銅山に移る
天明8年 (1788)	大阪で儒学者、尾藤二洲の塾に入門する
寛政6年 (1794)	江戸の昌平黌に入門し、再び尾藤二洲の教えを受ける
寛政9年 (1797)	江戸での勉学を終え郷里へ帰る
寛政10年 (1798)	川之江に私塾を開き門弟を教える
享和3年 (1803)	小松藩に招かれ藩校「養正館」儒官となる
文化3年 (1806)	現在の屋敷に移る
天保13年 (1842)	隠居を許される。40年以上の教育・徳行に対し、幕府から表彰される
弘化3年 (1846)	81歳をもって没す

は学問のある人だったので、別子銅山の小役人として雇われ、別子に移り住みました。暮らしては非常に貧しいものでした。また、そこで新しい母を迎えました。篤山は非常に優秀で、向学心があり、家

のこともよく手伝い、新しい母も特に大事にしました。どんな寒い日でも素読の音が聞こえない日はなかったといいます。いずれは学問で名を成し、貧しい生活から抜け出したいという思いは、小さい時からずっと持っていました。

朱子学との出会い

篤山があまりにも優秀なので、父はここで埋もれさせてはいけないと、大阪にやるこ

とにしました。篤山は、川之江出身の尾藤二洲という朱子学の先生の塾に入りました。貧乏だから仕送りのもなく、服も買わずにぼろぼろで、おからや粥しか食べられず、やせ細りましたが、絶対に弱音を吐かず必死に勉強しました。

ここで朱子学に出会った篤山は、砂漠が水を吸い込むように学びます。篤山にとつて朱子学はびったりきました。命がけで学ぶ値打ちのある学問だと感じました。3年経つと「尾藤塾に篤山がいる」といわれるほどになりました。

江戸へ行く

篤山が26歳の時、日本一の学校である江戸の昌平黌に、

尾藤二洲が教授として招かれました。二洲は、篤山をこのまま腐らせてはいけないと、昌平黌へ誘います。篤山は悩みました。病気がちの父には、銅山は環境も悪く、このまま置いておくのは申し訳ないという気持ちがありました。けれども勉強したい。悩んだ末、ついに29歳の時に昌平黌へ入ることを決心しました。

そこでまた猛勉強し、2、3年すると昌平黌でも名が通るようになりました。各藩のトップレベルの人間が集まる中、篤山は大きな藩から儒者になることを期待されるほどの存在感があり、二洲は自分の後継ぎに太鼓判を押してくられていました。地位と財産を

近藤篤山の生き様

て看病して励まし、悩む人がいればそこへ行って相談にのりました。篤山は常に人々の中で生きていました。このように、篤山には親しみやすい一面もあったとわかります。雲の上の存在としてだけでなく、そういうところが伝わり、自然に「聖人みたいな人だ」というようになったのではないかと今は思っています。ただ、なぜ聖人といわれたのかは、まだ研究の余地があります。

引き継いでいくために

篤山の偉業、生き様をどのように後世へつないでいくか。そのためにはやはり小・中・高校生、次の世代を担う人たちにどう伝えていくかが一番大事なことです。道徳として、上から目線で「篤山先生は親孝行だったので親孝行は大事です、あなたもしなさいよ」という教え方ではだめです。篤山は私たちと同じように悩み、苦しんで、しかし自分に目を向け、自分を鍛えていこうとしました。そういう面を、子どものうちに受け入れられるような方向が大切だと思います。

小さい時から三戒の教えを学び、意味が次第に分かってきます。小・中・高校と継続し、大人になってからも故郷を勉強するという流れができ、それが西条市全体に広がってほしいと思います。ずっとつないでいくことが大事です。

Interview



小松史談会会長
石丸敏信さん

篤山の研究、資料の編集発行などを行う

篤山はどういう人物だったか

一つ目は、朱子学の真の教育者でした。新しい学説や著書を多く出したわけではありませんが、尾藤二洲から学んだことを伝え、朱子学の神髄を厳しく教えました。二つ目は、朱子学の教え、例えば親孝行しなさい、長幼の序を守りなさいといったことを自ら行った実践者でした。生活全てが朱子学の教えに基づいていました。三つ目は、篤山が言った「三戒」の教えを、自分で実践しました。三戒というのは、自分をともかく厳しく鍛えるという考え方ですが、これを自ら実践しました。

日記から見えてきたもの

近藤篤山は、「聖人といわれた人」「雲の上の人」というように捉えられることが多くあります。そこには「私たちとは違う」「ついていけない」という部分があるかもしれません。約7年前に「机上日録」が見つかりました。篤山の32年間の日記です。それを読むと、篤山は毎日手紙をたくさん書いていました。日記には合計2,000人くらいの名前が出てきます。それくらい人とのつながりを大事にしていました。弟子に子どもができたなら心から喜び、誰かが亡くなったら心から悲しみました。各所へ行っていろんな話をしました。弟子が病気なら飛んで行っ

近藤篤山 生誕250年 記念イベント

生誕250年を記念し、近藤篤山旧邸・小松温芳図書館・小松公民館では3館連携してさまざまな企画を実施します。

●近藤篤山旧邸 無料開放

期間：11月12日(土)～20日(日)
※14日(月)・15日(火)は休館日です。

●小松・石根小学校児童による 学習発表展示

篤山先生について学習したことをまとめ、作品として展示します。

期間：11月12日(土)～20日(日)
場所：近藤篤山旧邸

●近藤篤山先生生誕250年記念 特別展示「篤山先生一代記」

篤山先生の一代記を描いた、近代日本画(屏風)を展示します。

期間：12月11日(日)まで
場所：小松温芳図書館2階資料室

●近藤篤山先生生誕250年記念講座 「愛媛県の儒学者～篤山先生を偲んで～」

講師：野田善弘氏
(新居浜工業高等専門学校教授)

日時：11月6日(日) 10時～11時30分
場所：近藤篤山旧邸
共催：小松史談会
定員：40人(要申込)
申込先：小松公民館

●小松中学校生徒による舞台発表 「郷土の偉人 篤山先生に学ぶ」

日時：11月12日(土) 13時～
(小松文化祭特別公演として)
場所：小松公民館大ホール

●小松高校生徒作品「篤山先生と小松の偉人 肖像画コンテスト」

小松高校の生徒が描いた、篤山先生と小松の偉人の肖像画コンテストを開催します。多くの投票をお待ちしています。

期間：11月12日(土)～26日(土)
場所：小松公民館

問合せ

○小松公民館 Tel.0898-72-2631
○小松温芳図書館 Tel.0898-72-5634



小松高校の生徒が 篤山らの肖像画を制作

「三戒」のほかに近藤篤山が説いた「四如の喩^{しじよ たとえ}」の教えを教育理念として、丹美園が安政5(1858)年に女子のための塾を開きました。これが現在の小松高校ライフデザイン科につながっています。何かと篤山との縁が深い小松高校では、小松の偉人を肖像画にし、コンテストを開催予定。美術部の6人に話を聞きました。

篤山先生の存在 Interview

(写真左下から反時計回りに)

- 吉田彩乃さん(1年) 篤山先生のことは、小松高校に入ってから知りました。創立記念日の集会で教えてもらいました。
- 八木翔也さん(2年) 篤山先生は尊敬できる人だと思います。残りの高校生活の中でさらに知識を増やしたいです。
- 水田ほのかさん(3年) 今回の肖像画コンテストを通して、いろんな篤山先生を知ってほしいと思います。
- 伊藤優香さん(3年) 小松高校といえば篤山先生がすぐ連想されます。生徒たちから尊敬されている方だと思います。
- 山田直美さん(3年) 丹美園を描きました。篤山先生がいなかったら小松高校はなかったかもしれないので、偉大な方です。
- 伊藤聖菜さん(3年) 小弾兵衛(小松一柳公の家来で剣の達人)を描きました。篤山先生は高校受験時に知りました。



小学3年生の児童が 近藤篤山旧邸を見学

近藤篤山の教えは、現在も学校教育などを通して受け継がれています。市内小・中学生には「わたしたちのふるさと西条の偉人伊予聖人近藤篤山」と題した冊子が配られ、授業などで活用されています。ほかにも生誕250年を記念し、さまざまな取り組みが行われています。



▲市教育委員会発行の冊子

9月16日、小松小学校3年生の児童が、近藤篤山旧邸を見学しました。建物の中に入った子どもたちは、まず居間に集まりました。篤山先生についての子どもたちの質問に対し、小松公民館職員が説明するのを、メモを取りながら熱心に聞きます。その後、建物内の見学に移り、書斎や座敷、縁側などを見て回りました。篤山先生が実際に生活していた場所、どんなことを感じ取ったのでしょうか。今後、授業の中で学習を進め、学んだことをまとめます。小松・石根小児童による学習の成果は、11月12日(土)～20日(日)にこの篤山旧邸で展示される予定です。



小松町ふるさと祭りでも 生誕250年をお祝い

夏の恒例イベント・小松町ふるさと祭り。7月31日に登場した篤山連も、篤山生誕250年を祝いました。地元の中・高校生が、書道パフォーマンスで三戒の「立志」「求己」「慎独」を書き、作品を持って歩きました。



「他人が見ていても見えていなくても、同じ態度でいなければならない」



「失敗しても人のせいにならず、自分に悪いところがあったか反省する」



「人は生まれもった才能を高めるため、さらに勉強しなければならない」

